

回覧										

医療安全通信は、各部署で回覧サインし、保管をお願いします。

第1回 医療安全研修会 開催

「医療安全のためのメンタルケア」



平成27年7月24日(金)、院内6階多目的ホールにて医療安全研修会が開催されました。横浜相原病院院長 吉田 勝明先生を講師にお招きし、「医療安全のためのメンタルケア」と題してご講演をいただきました。当日は、院外施設からも含め225名の参加がありました。講演は、従来型うつ病と新型うつ病の違い、ストレス対策など具体的で分かりやすく参考になるもので、講演中に動画もあり、「感動して涙があふれた。」「悩みの解決の糸口になった」との感想もありました。当日参加出来なかった職員は、院内LAN、DVDによる受講をすることになっております。

院内LAN 及び DVD貸出による研修受講 受付中 (8月31日(金)まで)

第15回 富山県公的病院医療安全研究大会 演題発表

「ジェネリック医薬品使用促進への薬剤部業務の重要性」

平成27年6月27日、アイザック小杉文化ホールにおいて研究大会が開催されました。薬剤部の高野由美子さんが、「ジェネリック医薬品使用促進への薬剤部業務の重要性」として当院における後発薬導入後の薬剤部としての取り組み、医療スタッフへの影響のアンケート調査、ジェネリック医薬品に対するインシデント事例報告、薬剤部やシステムの今後の課題について発表されました。

特別講演では 本年度10月から開始される医療事故調査制度についての概要、有効に機能するために、いくつかの課題、医療現場や指導医に求められる役割、心構え、ふるまいについて名古屋大学医学部附属病院副院長医療の質・安全管理部部長の長尾能雅先生が「医療事故調査制度について」講演されました。講演後には活発な質疑応答が行われていました。



医療安全コラム

「医療安全文化の標準化は受け入れられるか？」

医療安全委員会 副委員長 福田 昭宏

近年、医療安全に対する社会における関心の高まりに加え、医療安全に対する社会からの要求は、非常に高度なものとなっています。この社会的背景をもとに、様々な取り組みが医療の現場はもとより、医療系の学会などでも広く取り上げられるようになってきています。安全を推進し、より高いレベルでの安全が確保されることは、我々の環境のなかで重要である事は疑う余地がありません。医療現場での安全確保も例外ではありません。本来、安全の確保は自らが率先して行うべき事であり、周囲の要求に基づいて行うべきことではないと思われまます。しかしながら、人間はより重要で必要性が高いものは、文化として築き上げ、より高度なものに仕上げ、後世に伝えていく力を備えています。昨今、『安全文化』という言葉が用いられますが、文化とは、『人間の生活様式の全体。人類がみずからの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきた。』と解釈されています。医療の現場で安全な文化を築き上げることは、現状で満足される事は無く、継続的な学習をもとにさらなる発展をしていかなければなりません。さて、この秋より、あらたに医療事故調査制度が国策として導入されます。これは医療安全の推進が目的である事は言うまでもありませんが、さまざまな立場から意見が持ち上がり、賛否両論があるようです。医療安全に一定の基準をもうけて情報を収集し、標準的な判断をしていくと言うものですが、前述しましたように、そもそも安全文化は、自らの手で築き上げていくものですから、一定の基準に一致するかまたは基準を超えたら安全ではないなどという判断のもとに成り立つものではありません。一つの事象が、医療事故調査制度の報告基準に当てはまるかどうかをもとに安全文化の確立を考えるのではなく、日々の学習により習得される安全への配慮が医療現場では、最も重要な安全文化といえるのではないのでしょうか。

さらなる医療安全文化の確立に、職員全員で取り組みたいと思います。



10月からの医療事故報告制度について

厚生労働省公示により、医療事故報告制度が開始となります。病院の理念と基本方針に基づき、患者さん中心の医療の提供を行うことが重要で、特別な行動は必要ありません。インシデント・アクシデントの報告や診療録の記載など漏れないように今以上の配慮が必要となります。患者さん・ご家族と連携を持ち安全推進しましょう。